

＜第9回 若林地域会議 会議録＞

| | | |
|-----|--------------|---|
| 日 時 | 令和6年1月26日（金） | 19:00～20:30 |
| 場 所 | 若林交流館 | 多目的ホール |
| 出席者 | 委 員 | 17名 |
| | 市 役 所 | 太田市長、辻部長（企画政策部）、丹羽副課長（企画課）、 大光副課長（都市計画課） |
| | 事 務 局 | 中川室長、成瀬支所長、吉澤副支所長、松原副主幹、川合主査、 倉地主事 |
| | オブザーバー | 太田市議 |

1 会長あいさつ（省略）

2 市長あいさつ（省略）

3 答申書授受

→会長から市長へ答申書の受渡し

4 答申内容の説明

→会長より説明

5 市長との意見交換

〈委 員〉若林地域には子育て支援センターがないため、こども園併設の子育て支援センターを作ってほしい。

〈太田市長〉豊田市全体として施設整備が完全に整うということはない。今ある施設を最大限活かしていく必要があると考えている。本件は引き取って考えさせてほしい。

〈委 員〉逢妻男川沿いの遊歩道の整備をしてほしい。特に高美町から交流館へ向かう道が未整備なので、市として整備ができないか。

〈太田市長〉逢妻男川は県管理なので市が手を出しづらい場所である。他の地域ではわくわく事業を用いて、平戸橋の民芸館から越戸までの遊歩道を作った例がある。市の補助金を使える制度は整っているため、地域としてできることから始めてほしい。

〈委員〉今回具体的に提案した内容に対する回答が欲しい。少なくとも今回の答申書で二重丸をつけた部分に関しては回答をもらえないか。また、車の町と言われる豊田市で交通安全の面で通学路の道路整備は必須である。市として第9次総合計画の中でどのようなステップで通学路の道路整備をしていくか示してほしい。

〈太田市長〉通学路の歩車分離については全市的に声がある。区画整理が行われていく場所は並行して歩車分離を進めていけるが、旧来からある通学路については車道を狭めるのか、用地を買収するのかという選択をする必要があるため、危険性・緊急性を照らし合わせ総合的に判断していく。そのようなことを含めて、今回の答申書の具体的な部分の回答を今後用意する。

〈委員〉家の前の道路が抜け道として利用されているため、子どもの通学時間でもかなりの速度で自動車が通っている。昔から危険だと声があるが一向に改善されないため、どうにかならないか。

〈太田市長〉市として自動車優先から歩行者優先へ切り替える取り組みは続けている。その道路はゾーン30にできないか。

〈委員〉警察からは無理だと言われた。

〈太田市長〉他の地域の事例を挙げると、ゾーン30だが運転手が制限速度を守らない、そもそも地域住民がゾーン30がかかっていることを認知していないということがあった。その際には月に1回警察に取り締まってもらうよう相談した。そのようなことを続けていくしかない。また山の方ではペースカーというやり方を取り入れている。地域住民が制限速度を守って運転することで他も守らざるを得ない環境を作り、重大な事故の減少につながっている。そのようにして地域のことは地域が守る徹底することが大事だと思う。

〈委員〉親も子も忙しくなったため、地域のお祭りの参加者が減少傾向にある。今回の答申書にもあったが、学校と連携し、地域のお祭りの参加者が増えるような取り組みはできないか。

〈太田市長〉今は部活動の地域移行という話があるくらい学校の負担を減らしていく流れにあるため、学校に地域行事を担わせるのは難しいと思う。また、コロナが現在第10波になり、自治区の活動も中止・縮小しているため、自治区や子ども会の求心力が徐々に弱くなっている。ただ子どもは学校で横のつながり、子ども会で縦のつながりを学ぶため、大人の都合でなくしていいものではない。他の地域では自治区が子ども会の役割を担い、役員ではない地域の大人が子どもの面倒を見るということもある。

- 〈委員〉地域共働本部という組織があると聞いたが、そういった情報が地域まで回ってこない。自分も役に立てるなら力になりたいと思うが、どう動けばいいかわからない。
- 〈太田市長〉現在は浄水中学校の地域共働本部が PTCA と言って PTA に community (地域) を加えた取り組みをしている。各地域の人にもこういった取り組みを知ってもらう必要があると思うので、意見交換ができる場を設けたい。
- 〈委員〉能登の震災を受けて、水不足の問題が生じている。避難所の在り方として居場所の提供だけでなく、水の確保も必要であると考えがどうか。
- 〈太田市長〉最低限の水は各避難所に備蓄しているが、被害想定によって備蓄すべき量も変わってくる。南海トラフ地震のような大きな災害になると、豊田市の南に位置する沿岸部の人たちの流入も考えられる。よって豊田市以外の人も避難所に来ることを想定すると、避難所の備蓄を増やす取り組みよりも、後背地と協定を結び供給してもらうことを考える方が現実的である。また、能登の震災では水道管の老朽化も問題となった。豊田市も現状水道管の老朽化の問題を抱えているが、大型の病院等の水道管を優先的に変えているため、一般家庭での断水は免れない。なので、できるだけ広域で協定を結ぶ必要があると考えている。
- 〈委員〉前回の意見交換で、豊田市に住み続けたいと答えた割合に対して、岡崎市に住み続けたいと答えた割合が 10 ポイント高いというデータが住民調査の中でわかったと言っていたが、この結果の原因の調査はしたか。
- 〈太田市長〉1 点目は豊田市の回答には「どちらでもない」という選択肢があるのに対し、岡崎市にはその選択肢がないことが影響している。2 点目は岡崎市民は歴史や文化財への関心が高いという結果があるのでそれが要因ではないかと考えている。

6 事務連絡

- (1) 第 8 回若林地域会議の会議録について〈省略〉
- (2) 令和 5 年度 若林地域会議の予定〈省略〉

★次回開催

第 10 回定例会：令和 6 年 2 月 16 日（金）午後 7 時から 場所：若林交流館多目的ホール